

それは、音楽なのか。



共同監督・撮影・制作 牧原依里 零境 (DAKEI)

LISTEN

リッスン

出演：米内山明宏 横尾友美 佐沢静枝 野崎誠 今井彰人 岡本彩 矢代卓樹 零境 佐野和海 佐野美保 本間智恵美 小泉文子 山本のぞみ 池田華凜 池田大輔
配給：アップリンク 宣伝：響の鳥プロダクション 協賛：モルデックスジャパン株式会社 2016年 / 58分 / DCP / サイレント

「聾者の音楽」を視覚的に表現したアート・ドキュメンタリー、無音の58分間。

15人の聾者が奏でる、前人未到の映像詩。



世界には音楽が溢れている。

しかしあなたのまだ知らない音楽があるとしたら—

この映画は無音であり、言語は手話である。耳の聞こえない聾者(ろう者)たちが自ら「音楽」を奏でるアート・ドキュメンタリーだ。楽器や音声は介さない。彼らは、自身の手、指、顔の表情から全身に至るまで、その肉体を余すことなく駆使しながら視覚的に「音楽」空間を創り出していく。

出演者は国内外で活躍する舞踏家から、演技経験のない一般の聾者まで多彩な顔ぶれが集まる。彼らは各々に「音楽が視える」と語り、「魂から溢れ出る“気”のようなもの」から「音楽」を感じるといふ。複数の手話詩を交えながら「四季」を表現する初老の男性、木々のざわめきの中で風を歌う少女、波打つ浜辺で魂を叫ぶ女性、親密な愛情を共鳴させる夫婦……。手話言語を通じて日常的に熟達した彼らの身体表現は、「音楽とは？」という問いのさらに奥深く、人の内面から滲み出る内なる“何か”へと迫っていく。

新鋭監督・牧原依里 × 舞踏家・雫境(DAKEI)

二人の聾アーティストの化学反応

映画監督である牧原依里は、これまで視覚や振動に工夫が施されたいわゆる“聴覚障害者向け”の音楽に心を動かされることはなかった。むしろ、無音で鑑賞するミュージカル映画のダンスや、オーケストラの指揮者・演奏者の身体の動きから視覚的に「音楽」を感じ、魅せられてきた。そんな折、手話表現そのものに「音楽」を見出す手話詩と出会う。

一方、舞踏家の雫境(DAKEI)は、幼少期から補聴器をつけず、振動と視覚のみで育ってきた。「音楽なんてできっこない」と思い込んでいたが、舞踏との出会いでそれは覆される。踊り続けるうち、いつしか「手話は言語の領域を超え、それ自体が音楽を奏でられるのではないか」という想いが芽生えていった。

そんな二人の共振から「聾者の音楽」をテーマにした映画の探求が始まった。人はどうしてか歌わずにはいられない。いま、聾のアイデンティティーから「音楽」と「生命」の新たな扉をひらく。



歌わずにはいられない。

私たちは、それを、何と名付ければ良いのだろう。



© Deaf bird production

「LISTEN リッスン」自主上映会 in つくば 入場料 | 学生 ¥500 一般 ¥1,000

※事前申込制

2016. 10. 8 | 土 | 13:00~15:00 筑波大学 体芸5C棟 216教室

お問い合わせ | listen1008tsukuba@gmail.com URL | <http://www.deafstudies.jp/listen>

